

<コラム3> 2大プロジェクト後の東海地域

05年2月に中部国際空港が開港し、3月から9月にかけて05年日本国際博覧会（愛知万博）が開催された。開港に伴い、航空旅客数は前年（名古屋空港）比で国内・国際線ともに大幅に増加している（図1）。万博入場者数は、2,204万人に達し、当初見込みの1,500万人を大きく上回った。これら2大プロジェクトの効果もあって、名古屋市内主要ホテルの客室稼働率は、8月に過去最高（98.2%）を記録するなど04年12月以降前年を上回るとともに、同市内主要百貨店の売上高は、3月以降前年を上回っている（図2）。雇用面でも人材不足感が強まるなど、2大プロジェクトは景気回復を支える一因となっていた。

今後は、万博閉幕の影響が懸念される。特に、ホテルや観光施設については、観光客を再度呼び込むための方策が求められる。また、小売については、商業施設が万博の開幕にあわせて新設、増床された効果のはく落による一時的な落ち込みが懸念される（図3）。

一方、雇用面では依然として人材不足感が強い。景気ウォッチャー調査（8月）でも「愛知万博の閉幕を見込んだ求人需要が明確に動き始めており、年内は活発な動きとなる（求人情報誌製作会社）」というコメントが寄せられている。

景気ウォッチャー調査の先行き判断DI（各分野計）は、横ばいを示す50を超えており、一部に万博閉幕の影響が懸念されるものの、全体としては今後も着実な改善が期待される（図4）。

